

外国人等の散在地域における日本語指導体制の充実(3年次)

～校内や関係機関における連携のための取組と授業実践を通して～

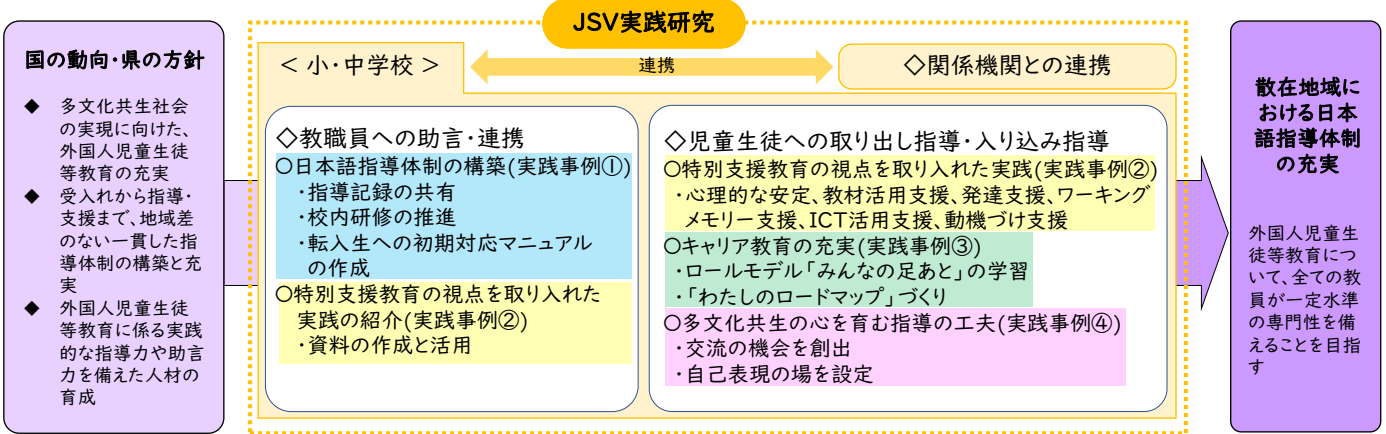
日本語指導スーパーバイザー(JSV) 近藤智香子 鈴木威仁 箱田樹 角田順子 篠原知洋

【目的】

- ・校内や関係機関における連携のための取組と授業実践を通して、指導力を高めるとともに、本県の外国人児童生徒等教育の中核として得た情報や学んだ知識を伝達したり、助言に生かしたりすることで日本語指導体制の充実を図る。

【内容】

- ・国の動向や県教育委員会の指導方針を踏まえ、児童生徒の実態に応じた日本語指導の実践を行う。
- ・多文化共生・共創を目指した本県の外国人児童生徒等教育を充実させるために、研修の成果を伝達したり指導する際の助言に生かしたりし、日本語指導体制を構築する。



< 事例① >

チームで取り組む日本語指導体制の構築に向けて (近藤智香子)

日本語指導を学級でも生かせるといいな。担任の先生が抱えている不安を共有できるといいな。

個別の指導記録の作成

日本語指導にあたる職員



連携

在籍学級の指導にあたる職員



手立て①
支援に関わった人が支援内容を記入し、蓄積していく。

手立て②
関係職員に回覧し、確実に情報共有する。(JSV・日本語指導員・担任・教科担任・管理職)

個別の指導記録(記入内容)

| 時数 | 日付 | 時間 | 内容 | 担当より | 学校より | チェック |
|----|-----|------|------------------------|---|---|---------------|
| 1 | 9/1 | 1時間目 | JSVまたは日本語指導員が指導した内容を記入 | <ul style="list-style-type: none"> ・JSVまたは、日本語指導員が指導して気付いたこと ・できるようになったこと ・つまづいたところ ・在籍学級での支援となり得る出来事 JSV・日本語指導員が記入 | <ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級での授業の様子 ・日本語指導を受けた後の変容 ・生徒指導 ・欠席状況 ・保護者からの連絡 担任・教科担任・生徒指導担当が記入 | 在籍学級担任 管理職 |

蓄積された記録を基に指導計画等を作成

組織での迅速な対策、対応
多角的な理解・効果的な指導

- ・誰でもできる「日本語指導」について、校内研修を実施
- ・急に転校生が来たときにも対応できるフローチャートを作成

< 事例② >

特別支援教育の視点を取り入れた外国人児童生徒等の指導の工夫 (鈴木威仁)

外国人児童生徒等に教える際に、どのような指導や支援を行っていけばいいのだろう...

外国人児童生徒等の指導では、対象児童生徒が**安心した環境**で学べる授業支援が求められている。本研究では、特別支援教育の視点を取り入れた外国人児童生徒等の指導を行い、具体的な支援方法について検討した。

特別支援教育の視点を取り入れた実践事例

- ① 心理的な安定
- ② 教材活用支援
- ③ 発達支援
- ④ ワーキングメモリー支援
- ⑤ ICT活用支援
- ⑥ 動機づけ支援

にこやかな表情で接し、分かりやすい、参加しやすい授業にする支援が大切です。全ての児童生徒にとっても分かりやすい授業になりますね。

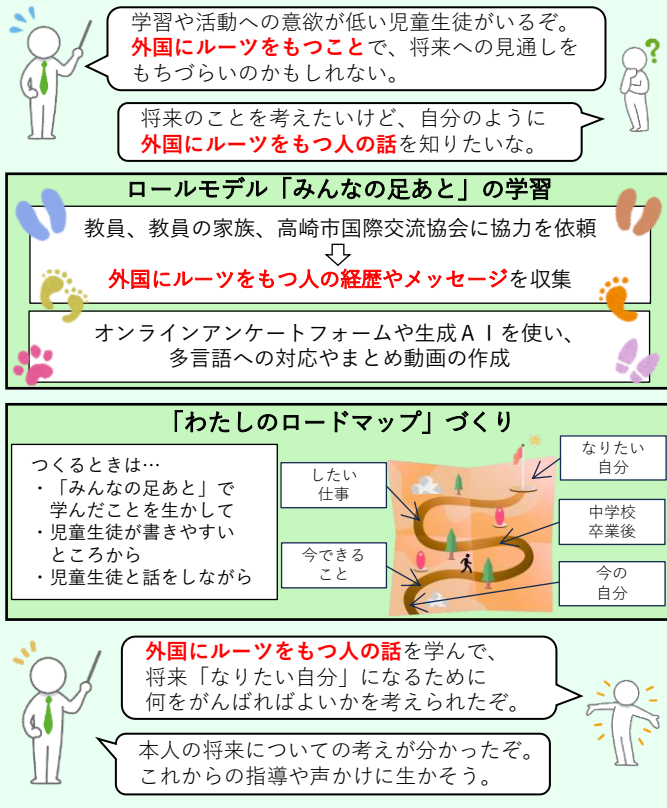
休まずに学校に行けました。自分で課題を選んで勉強できました。タブレット端末の翻訳を使ってテストにも取り組みました。

➡ 今後は外国人児童生徒等を含め、多様な個性や特性を有する児童生徒の**多様性を包摂する支援**が求められる。

【研究成果物】 → 校内の研修等で活用、JSVとの連携「外国人児童生徒等、多様な児童生徒が在籍する学級を担当したときに、安定した学級経営を行うための準備冊子」

< 事例③ >

日本語指導を要する児童生徒のキャリア教育の充実
～ロールモデル「みんなの足あと」の学習と
「わたしのロードマップ」づくりを通して～
(箱田樹)



< 事例④ >

多文化共生の心を育む指導の工夫
～児童生徒が自分らしく学び、互いを理解しながら
成長できる教室づくり～
(角田順子)



【考察】

「点から面へ」職員同士、児童生徒同士、誰もが自分らしく輝ける未来を共に創り出すために

<教職員へのアプローチ>

- ・校内研修において、「JSVの役割」「国・群馬県の現状」「指導の在り方」を伝達し、日本語指導の理解を推進する。
- ・個別の指導記録を作成。職員間で回覧して情報を共有し、連携を図っていく。
- ・フローチャート、日本語通信 などを通じて、短時間でも伝わる情報提供が有効である。
- ・特別支援教育の視点から「みんなが分かる」を外国人児童生徒等の指導に取り入れることが有効である。

<児童生徒へのアプローチ>

- ・キャリア教育の視点から、将来の見通しをもてるようにして、学習や活動への意欲を高める。
- ・多文化共生の心を育むために、教職員が外国人児童生徒等と周囲の児童生徒との「つなぎ役」になることが大切である。

【成果】

- ・日本語の指導記録や児童生徒が学習した様子を校内で共有することができた。
- ・特別支援教育やキャリア教育と日本語指導との関連性を具体的に示すことができた。

【課題】

- ・外国人児童生徒等に関わる校内研修を年間計画に位置付けることと内容の充実が必要である。
- ・児童生徒の実態に応じた進路ガイダンス及び多様性を包摂した支援が大切である。
- ・デジタル技術の積極的な活用、日本語と母語の力を活用した思考力の育成が求められる。

【提言】

日本語指導における情報の共有、特別支援教育やキャリア教育の視点を取り入れるなどして、日本語指導への改善が図れるような校内の指導体制づくりを行っていきましょう。